

I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を十分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心を持ち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの実態に沿って、指導計画の見直しを行う。教育保育の質の向上と保護者対応・保護者支援などを図る。また、本園の特色である科学あそびを更に充実させていくことを重点項目とする。

III. 評価項目の達成及び取り組み（要約）

	評価項目	評価	取り組み
1	子どもの実態を把握し、生活やあそびの充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none">・教師間の話し合いや日々の反省の記録を参考にし、子ども一人ひとりの幼児理解に努めた。・一人ひとりが自己を発揮し、あそびを通して様々な経験を重ねられるような環境の構成に取り組んだ。
2	長時間保育の充実	A	<ul style="list-style-type: none">・専任保育教諭6名を学年別に配置し、年齢に合ったデイリープログラムを作成し保育にあたった。学期末ごとに教育課程・指導計画の見直しをし、反省・課題を次学期に活かしてきた。・連絡ノートを活用し、クラス担任と連携を密にした。あそびの様子や個の健康面等を伝え合い、一人ひとりに沿った援助を心がけた
3	保護者に幼稚園と保育園及びリトル園の情報や、子どもの姿等を伝える。	B	<ul style="list-style-type: none">・園の教育方針や取り組みをホームページ、保護者懇談会、園便り、学年便り等を通して情報発信した。・今年度も各クラスで子どもの姿を定期的に紹介する保育ドキュメンテーションの掲示をしたが、回数が少なかった。

S：十分に成果があった A：成果があった B：少し成果があった C：成果がなかった

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資質向上のため教育保育を振り返り、園全体で取り組むべき課題を認識して改善していくように努力する。

V. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・常に教育保育の資の向上を図る必要があること、乳幼児の学びは環境（人的、物的、社会的、自然）との出会いから生まれることから、育ちに必要な経験を重ねていくことができるよう、保育内容を見直し検討する。 ・行事や活動の計画と準備に見通しをもつ。
保護者対応・保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の様々な思いに寄り添い、丁寧な言葉遣いや気持ちの良い対応などを心かける。 ・長時間保育を利用する園児が増えている。ひまわり組担当とクラス担任との連携を強化し、保護者を支援していく。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨による災害を受けたが、素早い対応と保護者はじめ関係各位の支援により復旧がなされていた。短期間で教育保育を再開し、保育環境が整わない中でも子どもたちのあそびと学びを一番に考え、保育を工夫してきたことが伝わってきました。 ・園児一人ひとりの個性や家庭環境、保育時間などを理解したうえで、それぞれに合った教育保育を提供する配慮がなされていた。保護者が安心感や信頼感をもつことができるよう、引き続ききめ細やかな教育保育を期待する。